

マネージメント情報

※アメリカとカナダの搾乳ロボット事情【アメリカ編】

【5/30】…1 軒目 Eloranta Dairy 牧場

DeLaval VMS×6 台で成牛 380 頭搾乳の農場です。換気システムは VES のクロスベンチレーションシステムです。

カナダは Lely の独壇場でしたが、アメリカは逆に DeLaval の方が多いようです。しかしカナダでお世話になった Lely の Rich さんがおっしゃるには Delaval も様々な条件を出してきていて入札で DeLaval が勝ることもあるそうです。

【昔ながらのアメリカの農場風景 奥にクロスベンチレーションのロボット牛舎があります】



【ロボット牛舎全景】

大きすぎてアングルが定まりません



【壁一面の排気ファン】



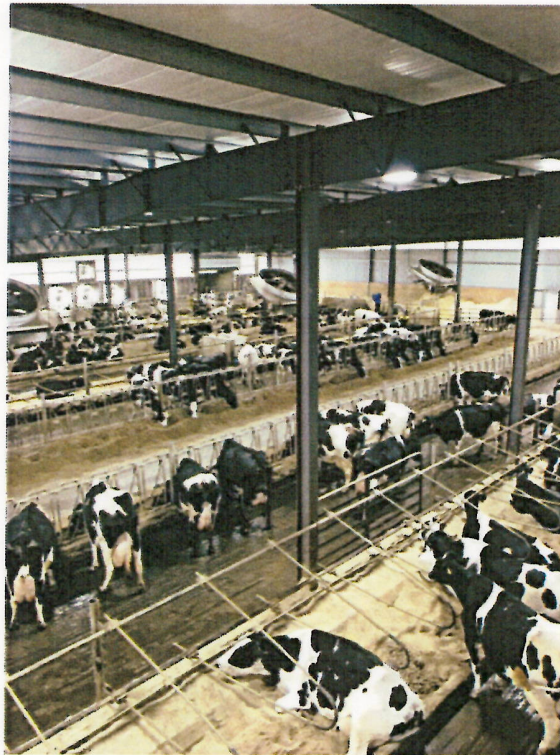
【反対側】



【排気ファン…内部】



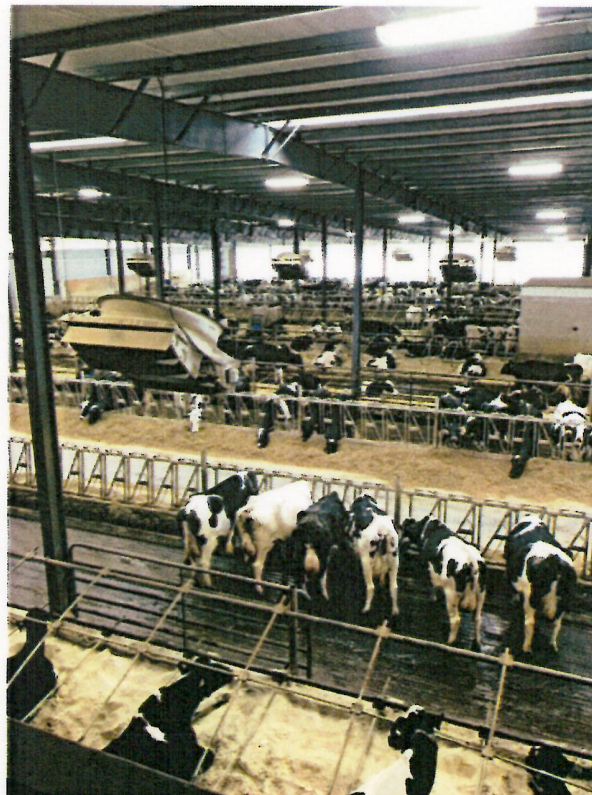
【牛舎内部①】



【牛舎内部②】



【牛舎内部③】



まず換気扇の数に驚かされます。牛舎の壁全面の排気ファン、牛舎の天井から吊り下げられたサイクロンファンの数。電気代の事情(基本料金が無い等)が日本とは異なりますが日本と比べて1/3~1/2 のアメリカの乳価を考えてこのシステムが成り立つといことは、投資効果が間違いなくあるのだと思います。(電気料金のシステムの違いは後日紹介します)

アメリカのクロスベンチレーションの牛舎は最初の写真にあるように日本のような屋根勾配のある牛舎ではありません。これは日本の建築基準法と異なり屋根勾配の制限が無いからです。

例えば、ウイスコンシン州に行きますと 6 月のマネージメント情報で紹介しましたような一棟 4,000 頭~7,000 頭規模のクロスベンチレーション牛舎を日本の建築基準法で作ろうとすると屋根の高さはとんでもない高さになり、現在の建築基準法の特別措置で認められている高さ 13m を遙かに超えてしまいます。数千頭という規模の牛舎を作るとは現実的ではありませんが、このようなところにもまだ規制があります。

クロスベンチレーションの牛舎は日本ではあまり見かけませんが、数千頭規模の建築コストの効率を考えるとこのような選択になるのかもしれない。

番外ではありますが例としてウイスコンシン州にある大規模クロスベンチレーション牛舎の農場の写真を紹介します。

【Rosendale Dairy】 4,000 頭×2 棟で



.....
・今回でこの連載は終了しますが、いかがでしたか?決して搾乳ロボットが全てだとは思いませんが、新築だけではなくどのような牛舎でも搾乳ロボットの導入は可能だということをおわかっていただきたいと思い紹介しました。またタイストールの搾乳ロボットというのもあります。今回のシリーズの話を7月にJA道東あさひ農協でしましたら大変興味を持っていただき、今月21日からJA道東あさひ農協の方と再度カナダとアメリカに視察に行ってくるので、帰って来ましたらまた紹介いたします。

・国の「働き方改革」という政策は酪農分野でもクラスター事業や楽酪事業の他、トラクターの自動運転、農作業の介助ロボットの導入など様々な形で進められているようです。前回紹介しました楽酪事業は全体で60億円の予算を組んだようですが、全国でまだ半分未達の状態だと聞きました。せっかく個人経営で利用可能な事業ですのでJAの担当者にご相談してはいかがでしょうか?

29.10.16.Y